



# 水たまり

ひらいゆう・井上明彦

右：ひらいゆう《赤い靴》油絵、キャンバス、41x33cm、2023

上：井上明彦《水のゆくえ》ブルキナファソの土顔料、膠、紙、257x182mm、2012



上：ひらいゆう《石けりあそび》油絵、キャンバス、46x55cm, 2023  
下：井上明彦《水のゆくえ》アクリル、木ほか、240x302mm, 2021



### 井上明彦 Akihiko Inoue

1990年代半ばより、水、重力、地面、屋根など、人間の生存を基礎づけるものに対して、絵や立体、写真、インスタレーションなど多様な方法で関わる。1995～2021年京都市立芸術大学美術学部教員（造形計画）。2006～07年文化庁新進芸術家在外研修（パリ）。近年の個展に、「2と5、偶々」（ギャラリーマロニエ、京都、2023）、「二つの傾斜地で：空堀と竜ヶ迫」（+1art、大阪、2022）、「コラボレーションに、「発酵をよむー藤枝守・井上明彦・稲垣智子」（+1art、2019）、「複数形の世界のはじまりに」（東京都美術館、2018）、「新シク開イタ地」（神戸アートビレッジセンター、2016）など

## ソコニ水タマリ、アル



### ひらいゆう Yu Hirai

子供の遊びに潜む普遍的な人間性をテーマに絵画を、自身の家族の物語をテーマに写真シリーズを制作中。1983年渡欧、ブリュッセルの美術学校でドローイングを学び、ベルリンで写真作品を制作開始。シラキウス、ダブリン、メキシコでのアーティスト・イン・レジデンスを経て、2002年以降パリを活動拠点に国内外での個展、グループ展、フェスティバルで主に写真作品を発表。2021年ドローイング集「Vestiaire de l'enfance」出版。2022年写真シリーズ「Sleeping Memory」がPrix Virginiaに入選。IKG国際芸術家フォーラムのメンバー。



井上明彦《水のゆくえ》アクリル、墨、色鉛筆、紙、270x190mm, 2022



ひらいゆう《白梅の森》実家の襖、墨、アクリル、180x90cm, 2024（未完成）

「水たまり」という言葉からどんなイメージが浮かぶでしょう？

最初に浮かぶのは地面の窪みにたまった雨水でしょうか？ 窪みのスケールによって、それは池となり湖、そして海になる？

宇宙から眺めたら海は大きな水たまりに見えるかもしれません。

地面の小さな窪みにたまった水も地球の 2/3 を覆う海も、スケールは違うけれど、どちらも重力に関係しています。

ふだん意識しない重力の存在を水たまりは見せてくれます。

ふだん意識しない（見えていない）ものを見せてくれるという意味では、アートも水たまりと同じようなものかもしれません。 +1 art カワラギ

## 水たまり

ひらいゆう・井上明彦

### Mizutamari

Yu Hrai, Akihiko Inoue

3/27 (水) - 4/13 (土)

12:00 - 19:00 (最終日～17:00)

休廊 日・月・火



谷町六丁目駅④徒歩1分  
出口右手の石段を下り小路を左に  
542-0012 大阪市中央区谷町6-4-40  
www.plus1art.jp TEL 06-7712-6685